



<http://www.jaaso.or.jp/>

J A あそだより

令和3年2月



イチゴとトマトを生産する山本倫大・愛沙美さん夫妻(撮影: 笹原 祥樹)

■今号12ページ 主な内容

- 令和3年祈願祭・仕事始め式
- 「営農・経済事業の成長・効率化プログラム」
キックオフ!
- 「アグリイノベーションフェア」開催
- 生産各部会の生育・出荷等の情報
- 「イラスト違い」正解者に抽選でプレゼント!etc.
今号も話題と情報を満載!!

JA阿蘇の
ホームページに
アクセスできます!



VOL. 115

JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

令和3年祈願祭・仕事始め式
原山組合長、職員を激励！

「JA阿蘇合併20年の節目、各部署職員一人一人がリーダーシップを」

職員一人一人
がリーダー
シップを發揮
して欲しい」
と、職員を力
強く激励し
ました。



A medium shot of a man in a dark suit and tie standing outdoors, speaking into a handheld microphone. He is positioned in front of a wooden podium and some greenery. The background shows a building and some hanging decorations.

1月6日 本所駒車場で「祈願祭及び
仕事始め式」が行われ、役職員ら約100人
名が参加しました。

神事が厳かに執り行われた後、原山
寅雄組合長が「昨年は新型コロナウイ
ルス感染症に始まり、豪雨被害と度重
なる困難に直面した年だった。今年こ
そは災害やコロナに負けない、打ち勝つ
ような一年にしたい。今年はJ.A阿蘇会
併20年という節目もあり、各部署の



年頭祝辞を述べる原山組合長

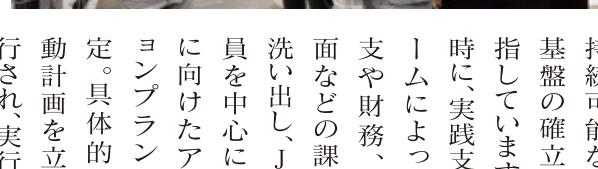
J A 阿蘇は熊本県下において初めに収支を改善する「営農・経済事業の成長・効率化プログラム」を取り組んでいます。同プログラムは、農林中央金庫・JA 熊本中央会・JA 全農本部が実践支援チームを組み、JA 阿蘇をサポートします。

同プログラムで打ち出されている成長・効率化施策は、昨年12月から実行に移されており、財務分析を基に事業の方向性を検討し、組合員への対応力の強化と事業の収益向上を両立させ、



A photograph showing three men from the waist up, all wearing white surgical-style face masks. The man on the right is in sharp focus, looking towards the camera. The two men on the left are slightly blurred, suggesting movement or a shallower depth of field. They are all dressed in dark-colored business suits and ties.

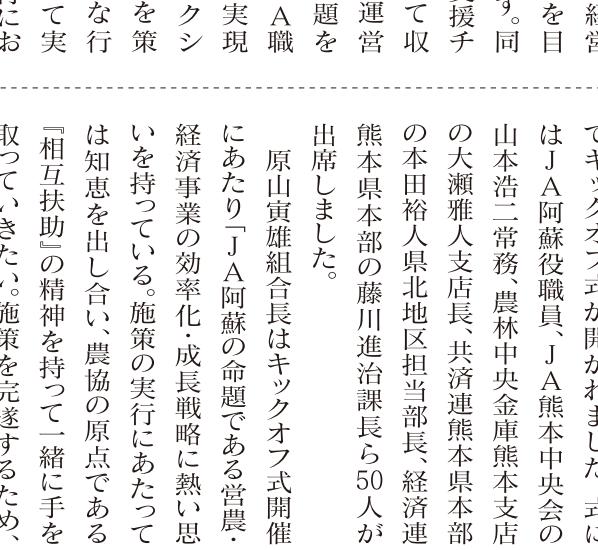
J A 阿蘇は熊本県下において初めに収支を改善する「営農・経済事業の成長・効率化プログラム」を取り組んでいます。同プログラムは、農林中央金庫・JA熊本中央会・JA全農本部が実践支援チームを組み、JA阿蘇をサポートします。



持続可能な
基盤の確立
指して いま
時に、実践支
援によつ
てや財務、
面などの課

実践チーム7人は既に12月初旬から14週間J.A阿蘇に常駐しており、分析結果の提起・解決策の提案など週1回の事務局会議にも参加して向上に取り組んでいます。

同プログラムは2月上旬に中間報告会を開き、3月下旬の最終報告会までに行動計画をまとめ、4月から施策を実行に移します。



はJA阿蘇役職員、JA熊本中央会の山本浩二常務、農林中央金庫熊本支店の大瀬雅人支店長、共済連熊本県本部の本田裕人県北地区担当部長、経済連熊本県本部の藤川進治課長ら50人が出席しました。

ラム施策の実行に経営陣と職員が全集中で取り組むことを誓います」と述べました。(写真上) 感染対策を取り開かれたキックオフ式(写真下)アスパラ選果場で

J A 中枢の関係者ら50人が出席
プログラム実施「キックオフ式」

12月4日、JA阿蘇一の宮中央支所

J A中枢の関係者ら50人が出席
プログラム実施「キックオフ式」



**知事へ新嘗祭献納の終了を報告
阿蘇市献穀事業推進協議会
大田黒元吉・祥子夫妻**

J A阿蘇を含めた令和2年度阿蘇市
献穀事業推進協議会と献穀者の大田
黒元吉・祥子夫妻は12月17日に熊本県
府を訪問し、蒲島県知事へ献穀献納を
無事終えたことを報告しました。

皇室行事の新嘗祭（献穀）は毎年11
月23日に天皇陛下が新穀を神々に供え
られ、ご自身も食される収穫と感謝の
御祭りであり、この御祭りに供する米
と粟が全国の農家から献納されていま
す。しかしながら令和2年度の献納は
新型コロナウイルスの影響により直接



写真上=大田黒夫妻にねぎらいの言葉をかける蒲島知事／写真下=献穀事業推進協議会関係者の皆さん

皇居でお渡しが出来ず、郵送する形と
なりました。

当日、献穀者の大田黒元吉さんは
「新嘗祭にあたり、収量より品質を大
事にという思いで無事献納を終えるこ

とが出来ました。何よりも事務局をは
じめ地域の皆様から積極的なご協力を
頂き非常に心強かった」と思いを述べ、
報告を受けた蒲島知事は大田黒夫妻へ

日々のたゆまぬ努力に心から敬意を表
します。献納は阿蘇地域の大きな喜び
と誇りになり、これからも本県農業の
発展とより一層のご活躍をお祈りしま
す」とねぎらいの言葉を送りました。



**一の宮中央支所周辺で
環境美化作業**

青壮年部一の宮支部盟

J A阿蘇青壮年部一の宮支部は12
月1～2回、地域の景観を良くしよ
うと続けています。当日は盟友7名で、
支所に隣接する県道11号沿いの通学路
となる歩道や四季彩いちのみや敷地内
のゴミ拾いを約1時間行い、空き缶や
ペットボトル、煙草の吸殻など約20kg
を回収しました。

岡田孝七支部長は
「同場所のゴミ拾い
を毎年行っている
が、残念ながらポイ
捨てゴミの減る様
子はないようだ。今
後も青壮年部の地
域奉仕活動として
続けていきたい」と
話していました。
(写真=約20kgのゴミ
を回収した青壮年部
一の宮支部の盟友)

JJA阿蘇アグリイノベーションフェア開催

大型ドローン飛行や無人作業ロボット、新規トラクター試乗等で
進化する近未来型農業を実演・体験!



JJA阿蘇は11月14・15日に阿蘇市で、同21・22日に南阿蘇村で新企画となる「JJA阿蘇アグリイノベーションフェア」を開催しました。このフェアには60社を超える企業が参加し、イベント開催の4日間に1000名を超える来場者がありました。

今回の開催にあたっては、会場入口に非接触型サーマルカメラ2台を設置。来場者には検温、センサー消毒をお願いし、来場者や出展者の感染症対策を充分に図った上で実施しました。

現在、AI(人工知能)やIoT(物のインターネット)を使ったスマート農業が推し進められていますが、今フェアの開催は、農業者・農業法人に対して近未来型農業の実演会を通じ、大型ドローンの模擬散布実演や無人作業ロボット、新規トラクターの試乗体験等で変わりゆく農作業技術の革新情報を共有・促進していくことが目的です。

JJA阿蘇では、このような新しい技術導入の受け入れ体制づくりにも取り組みを進めています。

このような取り組みは、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう／強靭(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」にも繋がっています。来場者は各企業から出展され、日頃なかなか見なれない大型農機の実演やドローンの模擬散布の様子に目が釘付けになっていました。

出展担当者は、製品パンフレットだけでは伝わらない実際の製品での実演や試乗体験をしてもらうことで、製品の魅力を伝え、来場者からの質問にも気軽に応じていました。

同会場では自動車の展示や資金相談の臨時窓口も設けられ、各部門間で連携して組合員をサポートする体制が整えられていました。昼食時にはキッチンカー等の飲食ブースの出店もあり、家族連れての来場者には大好評で一層の賑わいをみせていました。

今後ともJJA阿蘇は、安全・安心な農産物の持続的な生産が出来る環境づくりを進めていきます。



フェア会場には、最新鋭のトラクターや農作業機器が勢揃い!

大型ドローンの模擬散布実演やロボット草刈り機の実演も行われました!





**「上田尻地区営農改善組合」
参画農家22戸で設立総会**



昨年11月24日、産山村「上田尻地区営農改善組合」の設立総会が開催されました。同地区は令和元年5月7日、熊本県農地集積加速化事業の「促進地区」に指定され、同年8月26日に上田尻地区事業推進委員会の設立を行い、設立総会までに月数回の役員会や集落説明会を開き、同地区的課題や今後の方針等を検討してきました。

J A阿蘇いちご部会は2020年産出荷査定会を開催し、生産者や行政・JA関係など約60人が参加しました。

コロナ禍により開催が危ぶまれたが感染症対策をしつかり行い、部会員同心のもので例年よりも規模を縮小しての開催となりました。

**J A阿蘇いちご始動！
2020年産出荷査定会
JA・部会一丸となり販売強化を**

「上田尻地区の5年後、10年後を考えると、約30%の農地が不作付地になる可能性もあり、地域ぐるみで農地を守っていく仕組みづくりを、この組合で行つていいきたい」と就任挨拶で抱負を述べました。(写真上) 営農改善組合関係者の皆さん)

組合長に選ばれた井富太郎さんは、「上田尻地区の5年後、10年後を考えると、約30%の農地が不作付地になる可能性もあり、地域ぐるみで農地を守っていく仕組みづくりを、この組合で行つていいきたい」と就任挨拶で抱負を述べました。(写真上) 営農改善組合関係者の皆さん)

り、当初計画での4月(昨年)設立を念していましたが、11月24日、組合設立に漕ぎ着けることができました。

営農改善組合への参画農家数は22戸、面積43.3haで、同地区内農地面積の80%以上を集積する計画です。

総会は阿蘇地域振興局・産山村役場・熊本県農業公社・JA阿蘇から関係者らが出席し行われ、提出4議案すべての承認を得て無事終了しました。

JA阿蘇いちご部会は「育苗後半の日照不足と高温の影響により生育の遅れが懸念されたが、例年通りの花芽分化となつた。また台風の影響で定植が6日遅くなつたが、大きな影響もなく生育順調で年内高需要の出荷量が期待される」(取材時)と意気込んでいました。

(写真上) 2020年産出荷査定会の様子)

江藤秀晃指導員は「育苗後半の日照不足と高温の影響により生育の遅れが懸念されたが、例年通りの花芽分化となつた。また台風の影響で定植が6日遅くなつたが、大きな影響もなく生育順調で年内高需要の出荷量が期待される」(取材時)と意気込んでいました。

などが話し合われました。



**福岡市の石丸校区で収穫祭
小国郷生しいたけ部会**



収穫祭で小国郷生しいたけをPRする松野部会長

小国郷生しいたけ部会(松野英一部会長)は11月21日、福岡市石丸校区で初めての原本生しいたけの収穫祭を行いました。

一昨年2月、同部会では石丸校区内

※次のページに続く



※前ページより続く

の近隣住民を対象に駒打ち体験会を実施しており、その際、参加者は自分の名前を原本に記して原本のオーナーになりました。それらの原本は収穫できるまでの間、部会員が定期的に管理を行ない、また石丸校区生じたけ部会長の寺山一徳さんも毎日水やりなどの管理を行い、今回の開催に至りました。

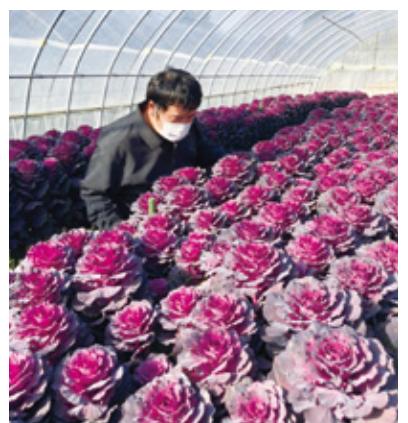
当日、参加者からは「駒打ちをしてから収穫まで長かつたが、こんなにたくさん発生していて嬉しい」とか、「これから発生するものがあるはずなので大事に育てたい」など歓声が上がっていました。松野部会長は「収穫の喜びを思い出させてくれるイベントだ。普段の収穫は



収穫祭では野菜の販売も併せて行われました。販売担当の木下翔太職員は「コロナ禍で開催すべきか悩んだが、寺山部会長の協力もあり、進行もスムーズに行なうことが出来た。来年も盛大に行ないたい」と抱負を話していました。

マンネリ化した作業になってしまつていいが、初心に帰れるとても良いイベントになつた」と笑顔で話していました。同校区の寺山部会長も「初めての校区での収穫祭で、ちゃんとできるか不安だったが予想以上の大満足。成功に終わり来年に向けて自信がついた」と語っていました。

蘇陽地区の切り花用葉牡丹 年末の需要期に向け出荷



蘇陽地区では平成28年度から栽培している切り花用葉牡丹が順調に生育（12月中旬取材時）しており、年末の需要期における出荷に期待がかかっています。同地区への切り花用葉牡丹導入は、市場の担当者より「平坦地では気温が高く思つた色合いが出ないため、高冷地の産地を作りたい」という要望から栽培が始まりました。

栽培当初は簡易雨よけの露地栽培でしたが、ハウス栽培に移行することで仕上がりも良好となりました。マルチ栽培に加え、出荷までの樹勢を保つために栽培初期から施肥量を増やし、葉かかる栽培が始まりました。

栽培担当の古庄範寛職員は「今年も生育が順調で、年末の需要に向けて販売していきたい」と話していました。

販売担当の古庄範寛職員は「今年も生育が順調で、年末の需要に向けて販売していきたい」と話していました。

J A 阿蘇アスパラ部会（西村豊治部会長）は12月14日、県内出荷市場を同部会の三役が訪問して次年度の販路確保に向けた意見交換を行いました。これは2020年産における出荷

出荷は12月末に九州管内の市場へ約1万5000本を見込んでおり、品種はエレガンスとフエザーホワイトとなっています。（写真上）生育状況を確認する担当者（昨年12月13日撮影）

アスパラ部会 次年度の販路確保に向け 県内出荷市場と意見交換





※前ページより続く

反省会が新型コロナウイルス感染予防のため書面による報告となり、出荷市場担当者とシーズン終わりに行う意見交換が出来なかつたためで、今回が初の試みとなりました。

当日は熊本大同青果株(熊本市西区)、熊青西九州青果株(同)、熊本東部青果株(熊本市東区)の3市場を訪問し、西村部会長はそれぞれの市場担当者に「輸送コストを考えると県内市場で安定した販売が出来ることが産地メリットとしては高いので、次年度において安定した販売に期待をしている」旨を述べました。

また指導販売係の後藤真智職員も「県内市場だからこそ出来る販売提案をしてほしい」と要望しました。

対応した市場の一つ、熊本大同青葉茎菜部の大坂隆文部長は「産地との情報共有を強化し、県内市場として責任ある販売をしていきたい」と応えていました。

J A阿蘇の県内出荷アスパラガスは約35%を占め、例年シーズン終わりの細物階級の価格低迷が課題でしたが、同年は輸送コストが安価な県内市場と早い段階での販売計画により価格を維持することが出来、結果として生産者の所得向上に繋がることが出来ました。

(前頁の写真)次年度の販売対策について協議する部会三役と市場担当者)

J A阿蘇は今後ともすべての生産者の力になれるよう一層の連携を図り、取り組みを続けていきます。

J A阿蘇は今冬はラニーニャ現象の影響で12月から寒波があり、朝晩の冷え込みがマ



約15万パックを熊本・福岡に出荷

小国郷七草部会

部会長の「田水宏」さんは「コロナ禍、出荷作業の不安もあつたが今年も順調に出荷でき良かった。今後とも昔からの食文化なので大切にしていきたい。七草粥を食べて元気な体を作つて、今年1年の無病息災を願つていて」と語っていました。

今季は約15万パックを主に熊本・福岡両県に出荷しました。(写真上)感染防止対策万全でのパック詰め作業の様子

夏秋トマト経営・総販売高功績で 中部トマト部会 斎藤孝幸さんへ JA阿蘇より表彰状を贈る



写真上=表彰状授与の様子／写真下=左から山本常務・古澤常務・斎藤孝幸さん・原山組合長

ましたが、出荷作業には影響なく順調に出荷が進められました。

特に今冬は、新型コロナウイルス感染症が蔓延している中での作業となり、感染防止対策として毎日の検温やマスク・手袋・フェイスシールドの着用を徹底。飛沫防止対策として私語はないなど、生産者からコロナウイルス感染者を出さないように出来る限りの対策を行つて作業を続けました。

七草は1月7日に7種類の草(野菜)を入れたお粥を食べて、その年の邪気を払い健康を祈願する食べ物で、中国の古い風習が日本にも伝えられたと言われています。昔は12種類もあったそうですが、今では、せり・なすな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしきの7種類が主流となっています。小国郷七草部会では6戸がそれぞれを栽培し、パック詰めして集荷場へ出荷しました。

今冬はラニーニャ現象の影響で12月から寒波があり、朝晩の冷え込みがマ

イナス5度前後まで下がった日もあり



「こうして、過ごしたい！」 2021年新年を全力笑顔でスタート！

塚元 健太郎(ツカモト ケンタロウ)45歳・南阿蘇村

生産品目＝あか牛繁殖・水稻

経営規模＝繁殖牛75頭・水稻1.2ha

今年は75頭から80頭に増頭し規模拡大を図り、良質のあか牛を生産し、共進会入賞を目指します。

宮川理沙職員(一の宮中央支所LA係)未来塾修了レポート発表会で優秀賞

JA熊本教育センターで1月8日、令和2年度未来塾の修了レポート発表会が行われました。令和2年度は新型コロナ禍での研修となり、開催期日の延期や内容の変更が余儀なくされました。県下JAより13名の職員が塾生となり、昨年5月から今年1月まで計10回の研修の中で学んだことを発表しました。発表当日は例年、常勤役員や過年度修了生の来場や参加を行っていましたが、今回はWeb配信での応援となりました。JA阿蘇からの塾生である一の宮中央支所LA係の宮川理沙職員は「JA阿蘇から情報発信～集客NO.1を目指して～」をテーマに発表。審査は魅力度・論理性・表現力の3点を9名の審査員が厳正に審査し、審査の結果、優秀賞に輝きました。(写真＝レポートを発表する宮川職員)



高森町はじめ南阿蘇村の生活を支える拠点 高森JA-SS 新装オープニングセレモニー

JA阿蘇は12月7日、JA阿蘇高森JA-SS新装オープニングセレモニーを開き、華々しいオープン初日を飾りました。式典にはJA関係者や高森町長をはじめ関係者35名が参加しました。同SSの地下タンクは設置より40年が経過し、流出防止対策のためタンクの入れ替えを行いました。草村高森町長は来賓挨拶で「このJA-SSは熊本地震の際に、地域の早期復旧の基盤となって、いち早く町民の交通手段確保に大いに貢献して頂いた。これからも高森町をはじめ南阿蘇村の生活を支える拠点となって欲しい」と祝辞を贈りました。当日は給油デモンストレーションも行われました。



オープニング挨拶の原山組合長



祝辞を述べる
草村高森町長



決意を述べる
岩下新所長



より機能的で、さらに
サービスも向上した
高森JA-SS



「JA阿蘇きらり★」

濱崎

まさき

翔大

しょうだい

LACOSTEの服に凝っています！



共済部 事故相談課

★趣味 コメディ系の映画を鑑賞したり、服を買ったりするのが好きです。最近は、LACOSTEの服に凝っています。

★一言コメント 入組5年目で交通事故の担当をしています。5年間の中で時には苦しい時もありましたが、上司・同僚の助けを貰いながら、頑張る事が出来ました。その中で契約者様からの感謝の言葉は、何よりの糧になります。これからも頑張りたいと思うので、宜しくお願ひ致します。

山本倫大さん・愛沙美さんは、中部農業センター管内（阿蘇市小野田）でイチゴとトマトの生産をしている若手生産者です。4年間勤めた会社を退職後、平成25年地元阿蘇市へ戻り就農し、平成30年11月、法人（山本耕農株式会社）を設立しました。

現在は夫妻で従業員9人を雇用し、イチゴ栽培42a・夏秋トマト栽培66aの経営をしています。

當農上で特に重視していることは、栽培圃場の休耕期間中に阿蘇の野草ortalを熟成させた堆肥を土壤に混ぜて、土壤連作障害等を助長させない土づくりを行い、環境保全型農業の取り組みを続けていることです。

雇用面においてはワークライフバランスのとれた農業の実現（雇用者の仕事と生活の充実）、女性の活躍（子育て世代の積極的雇用）を念頭に置き、雇いました。

山本さんは「まだまだ毎年思うようにいかないこの連続で、日々勉強しながらの営農ですが、頑張った分だけ答えが返つて来るのでやりがいを感じています」と、更なる飛躍に期待を込めて

用者が働きやすい職場環境をしっかりと構築することで、生産性の向上に繋げています。

『表紙の山本夫妻紹介』
県農業コンクールで新人王部門受賞
環境保全型農業や職場環境構築で
生産性の向上に繋げる



写真上=山本倫大・愛沙美さん夫妻
写真下=イチゴ栽培について熱く語り合う
山本さんと園芸課の江藤専任指導員

JA阿蘇 イラスト違い探し「ひな祭り」

左右2枚のイラストには、違っているところが5か所あります。探してみてください!

(出題: イラストレーター みやたみゆき)



イラスト違い探し「ひな祭り」応募方法

「ひな祭り」イラスト 5 か所の違いを、官製ハガキに書いて応募してください。正解者の中から抽選で 7 名様に写真の「いちご(恋みのり)2 パックセット」をプレゼントします。応募締め切りは令和 3 年 3 月 15 日(当日消印有効)です。

当選者は次号のJAあそだよりで発表します。



前号「どんどう」答えとプレゼント当選者5名様



石田 覚様 (小国町)
井野 浩二様 (阿蘇市)
興梠 昭一様 (山都町)
坂本 俊子様 (阿蘇市)
古莊 幸子様 (南阿蘇村)

= 答え =

- ① 左の男性の餅の数
 - ② どんどやの上の葉
 - ③ どんどやの中央の炎
 - ④ 煙の形
 - ⑤ 女の子の竹の長さ



ハガキ（表）

郵便番号
8692612

阿蘇市一の宮町官地387-5
JA阿蘇 総務部
「JAあそだより」係

ハガキ（裏）

●イラスト違いの答え
①
②
③
④
⑤

●郵便番号

●住所(番地までご記入ください)

●電話

●氏名

●年齢

●ご意見・ご要望
(内容によっては誌面で取り上げさせていただきます)

●その他

理事会・監事会報告

■令和2年度第12回理事会

日時 令和2年12月18日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

委員会報告(債権管理委員会)

11月末実績について

令和2年度上期決算監事監査報告書について

1) 貸出金について(3件)

2) 貸倒実績率の補正について(案)

3) 育児・介護休業法施行規則等の改正に係る就業規則等の改正について(案)

報告事項

1) 令和2年度導入家畜等棚卸監査実施要領について

2) 年末年始の業務等(金融・共済・営農・購買)について

3) 年末年始休日の緊急連絡先について

4) 仕事納めに伴う支所巡回並びに新春の年賀について

5) 自主検査結果報告(令和2年9月・半期)について

6) 不祥事再発防止策取組状況(令和2年9月末)報告について

7) 「熊本県域JA構想」に係る理解釀成に向けた取り組みについて

8) 令和2年度出荷予約・集荷対比表12月14日現在集計について

9) 理事会日程変更について

4. 閉会

■令和2年度第13回理事会

日時 令和3年1月29日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

12月末実績について

1) 令和2年度上期決算監事監査回答書(案)について

2) 貸出金について(3件)

報告事項

1) 内部監査の品質に関する内部評価報告書について

2) 内部監査実施状況報告書(令和2年10月～12月)について

3) 県域ローンセンター媒介業務実績について(四半期報告) ↗

4) ATM利用状況について(12月末)

5) マネロン・反社等への対応状況について(四半期報告)

6) 有価証券の購入について

7) 令和2年度春の農機・自動車展示会について

8) 令和2年度農政連会費・募金等徴収実績報告について

9) 職務権限表の改正について

10) 自主検査結果報告(令和2年11月)について

11) 令和2年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの進捗状況
(令和2年12月末)について

12) 不祥事未然防止の為の行動計画進捗状況(令和2年12月末)
について

13) JA阿蘇活動総合3ヵ年計画の進捗状況
(令和2年12月末)について

14) 「熊本県域JA構想」に係る理解釀成に向けた取り組みについて

4. 閉会

●令和2年度第11回監事会

日時 令和3年1月21日午後1時30分

場所 本所2階第1会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1) 令和2年度導入家畜等棚卸監査実施手続きについて

報告事項

① 常勤監事業務報告について

② 常勤会議等報告について

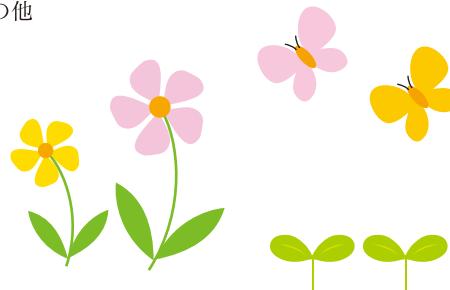
③ 不祥事未然防止策内部監査実施状況報告書について
(令和2年10月～12月)

④ 内部監査の品質に関する内部評価報告書提出について

⑤ 行事予定について

⑥ その他

4. 閉会



● ● ● JA阿蘇職員異動のお知らせ ● ● ●

辞令（令和2年12月1日）

氏名	新 辞 令	旧 辞 令
岩下 悟	高森中央支所購買課高森給油所長	営農部南部営農センター農産課主任兼地域農業再生協議会担当
矢津田明大	高森中央支所購買課高森給油所長代理	高森中央支所購買課高森給油所長

熊本県では**自転車保険（共済）の義務化**が検討されています！

J Aの自動車共済 日常生活賠償責任特約

日常生活の思わぬトラブルによる賠償責任に備えませんか？

例えばこんなとき

自転車運転中のトラブル



自転車で通行人に
ケガをさせてしまった

新しい特約が
登場しました！



自転車で転倒し、駐車中の他人の
自動車に傷をつけてしまった

例えばこんなとき

日常生活のトラブル



お買い物中にお店の
商品を壊してしまった



飼い犬が人を噛んで
ケガをさせてしまった



洗濯機のホースが外れて水漏れで
階下に損害を与えてしまった

※住宅以外の不動産の所有、使用または管理を除きます。

年間共済掛金

1,890円

※一時払（年間）の場合 ※全ての等級で同一共済掛金です。 ※2021年1月現在

最大2億円まで保障！

安心の示談交渉サービス付

お支払いには所定の条件があります。この資料は概要を説明したものです。詳細につきましては「重要事項説明書（契約概要・注意喚起情報）」および「ご契約のしおり・約款」により必ずご確認ください。

お問い合わせは

JA阿蘇 共済部 0967-22-6120 迄

JA共済

20432000006